

研究紹介

評価・改善

学校教育の充実を図る

評価・改善の推進

「地域の特性を生かし「マイナス」をプラスに転じる」

周防大島町立浮島小学校長

武居利彦



一 要旨

本支部では、「学校評価の工夫」「教職員評価の工夫」「学校評価と教職員評価の関連付け」という視点から、喫緊の課題である学力向上に向けて、教職員の意識改革と資質向上に取り組んでいる。本町の特性を生かし、保護者・地域、中学校、小学校との連携を強化する中で、「共有」と「参画」をキーワードに教職員に働きかけを続けているところである。これらを、校長の役割という観点から、「学校経営ビジョンの明示」「学校の特色を生かす」など四つの視点からとらえ直し、成果や課題を共有することで、今後の取組の充実を図りたいと考えている。

二 本支部の取組

(一) 学校評価の工夫

- ① コミュニティ・スクール
教職員が参画するコミュニティ・スクールの組織を機能させることで、学校評価を改善する。
- ② 小中連携協議会
中学校と連携し、九年間の子ど

もの育ちを見通した学校評価に改善する。

③ KS (拡大集合) 学習

適正規模の学びの場をつくる中で研修体制の活性化を図り、学校評価を改善する。

(二) 教職員評価の工夫

① 課題の共有

教職員を学校評価へ参画させることで、課題意識を高める。

② 人材育成

それぞれのキャリアステージに応じた目標をもたせる。

(三) 学校評価と教職員評価の関連付け

① 「CAPD」のサイクル

学校評価による課題の明確化「C」↓改善策の策定「A」↓「A」を踏まえた教育ビジョンの提示↓自己目標の設定「P」↓実践「D」

② 成果・課題の共有と改善への参画

教育ビジョン策定過程に、教職員が参画する場をつくる。

③ 自己目標の更新

面談により、現状と自己目標とのズレを認識させる。

三 校長の役割

(一) 教育ビジョンの明示

学校評価から協議した学校の課題を共有し、その解決に向けた学校のベクトルをつくり明示する。

(二) 連携の推進

機動性を生かし、地域や中学校との連携を促進することで、学校の課題の共有化を図る。

・ コミュニティ・スクール

・ 小中連携協議会

(三) 授業改善の推進

機会を捉えて適正規模の学びの場をつくり、そのことを通して研修の活性化を図る。

・ KS 学習

「みんなでKS学習」

「どこでもKS学習」

「いつでもKS学習」



みんなでKS学習



小中連携協議会での協議

「S (スーパ) KS 学習」
「だれとでもKS 学習」
・ 全校授業

(四) 教育ビジョンの明示

学校評価から協議した学校の課題を共有し、その解決に向けた学校のベクトルをつくり、明示する。

(五) 断続的な評価

教職員の意識改革と資質向上をめざし、面談時のみならず実践場面においても評価を断続的に行う。

・ 課題の共有意識

・ 「ま」かせる「ほめる」「うけとめる」

・ 改善への参画意識

四 成果と課題

(一) 成果

① 課題意識と改善への参画意識の高まりつつあり、目標のラインができてきた。

② 小・中学校の教職員間の交流が増し、九年間を見通した取組が具体化しつつある。

③ 学校間連携が広がっている。小・中学校のみならず、保育園や高校との連携も始まっている。

(二) 課題

① 学校間の効率的な連絡調整の在り方

・ 地理的な条件もあり難しい問題である。

② 地域の願いや要望と学校の実態とのすり合わせ

・ 「熟議」を推進したい。

③ 課題に対する教職員間の温度差

・ 「ま」「ほ」「う」で働きかけ続ける。